

---

# そらいろ

鎌学 文芸部

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そらいろ

### 【Nコード】

N7557C

### 【作者名】

鎌学 文芸部

### 【あらすじ】

かわらない日常。絶えず変わりゆく空。戦争はすぐそこにせまっていた。

(前書を)

をいふ

青かった。青くて広い空。

いつも暇なときは屋上の貯水タンクに背をもたれながら見上げていた。

もう誰も見てないと思う。

高い建物が阻んでいるから。

ただあるだけだと思っっているから。

でも、ほんとは違う。なんとなくわかる。

そんな空を飛行機が飛んでいった。

長い間空を見続けていたけど、飛行機なんてみたことはなかった。

小さくて、黒色で、すごい速さで飛んでいった。

でも誰も気づいていないと思う。

だって、ただあるだけだと思っっているから。

後には、長くのびた飛行機雲が残された。

白かった。白くて広い空。

辺り一面雪景色。当然貯水タンクも雪まみれになっていた。

誰もがみんな家の中にいて、暖房でもつけながらテレビを見ているんだろう。

でも、窓から見える空はいつもと違う表情をしていた。

曇る窓を、服の裾で拭きながらけなげにも見ていた。

そんな窓の一枚に何か黒いものが見えた。群れをなして、こっちに飛んでくる。

初めは鳥だと思っっていたけど、近づいてくることに違うことに気づいた。

それはこの前見た、あの小さくて、黒色で、すごい速さで飛んでいった飛行機と同じもの。でも、今度はたくさんだ。

その不気味な群れは家の上を超えていった。

そんなことはまるで最初から無かったかのように、静かに雪はこの街に降り続いていった。

夜、ソファに横になってテレビを見ていた。

さすがに眠くなってきた頃、テレビから何か叫び声が聞こえてきた。

でも、気にせず目を閉じた。

何日か前から荷物を詰めていたバッグを持って、「いくわよ」とお母さんは家の外に出た。

がらんとした家の中がどこか不気味で、早歩きのお母さんの後に駆け足でついていった。

夕暮れで赤みを帯びた道路の脇にたつて手を挙げる。一台のトラックが目の前で停まった。

お母さんはそのトラックの運転手さんに何か言っつて、後ろの荷台に乗った。

しばらく荷物の中でゆられ、着いたのは街から少し離れた病院だった。

前に来たときよりも待合室にはたくさんの方がいて、でも、少しおかしいのは毛布を持った人がたくさんいることだ。

同じような毛布をお母さんも持っていて、「今日はここに泊まるからね」とだけ言っつた。

そとはもう真つ暗だった。

目が覚めた。受付の明かりだけがついている。

まわりの人の熱気で寝苦しかったから、気分転換に外に出ようと思っつた。

でも、病院の中の暗さとは反対に、外は明るかった。

空が燃えていた。

ほんとにそう思っつた。

頭上をあの小さくして、黒色で、すごい速さの飛行機が飛んでいた。

(後書き)

藤城一

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7557c/>

---

そらいろ

2011年1月8日21時39分発行